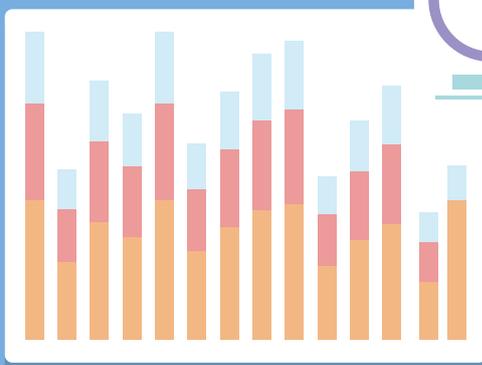
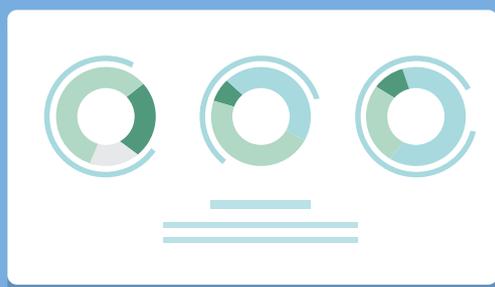


QPPROACH

SCHOOL OF ECONOMICS

経済学へのアプローチ



2026





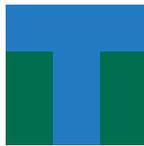
幅広い教養・知識
理論的思考力

専門的知識

T字型人材の育成

どのような経済活動も、多くの人々の協働と多様な知識の結集によって成り立っています。製品を作って売るという単純な行為でさえ、何を作るのか、どうやって作るのか、作るのに必要な労働力・資材・資金の調達はどうするのかなど、それぞれに専門的な知識や技術、それらを担う人々の協力が不可欠です。そして、このために必要な知識は、人文科学や自然科学の領域にまで広がっており、そのすべてを一人で勉強してマスターすることは現実的ではありません。そこで、経済学部卒業生には自分自身の専門分野を磨くとともに、幅広い分野の人との協働を可能にする学識が求められます。ここでいう学識とは、コミュニケーションの基礎となるような幅広い教養や知識、および論理的思考力のことです。このような学識と専門的知識を兼ね備えた人のことをT字型人材と呼ぶことがあります。Tの横棒が異分野の人との連携を可能にする学識、縦棒の部分が深く掘り下げた自分の専門的知識の部分です。

名古屋大学経済学部は、前身である旧制名古屋高等商業学校（1920年創立）以来100年を超える伝統の中で、まさにT字型人材を育成してきたといえます。専門（Tの縦棒）を徹底的に鍛える3・4年次のゼミと卒論研究は、一人の教員が指導する学生を原則8名までとする徹底した少人数教育を厳格に実践しています。また、幅広い学識（Tの横棒）を獲得するために、1・2年次に行われる全学教育（一般教養）だけでなく、専門科目群の中に理論的アプローチ、歴史的アプローチ、事例研究、実地調査など多種多様な科目を用意しています。かつての旧制名古屋高等商業学校が、「単なる商業経済の専門学校でなく総合大学としての偉容を有する」と賞賛された、そのDNAを今に引き継ぎ、有為なT字型人材を自然に育むカリキュラムを展開しています。



経済と経営を複眼的に学ぶカリキュラム

名古屋大学経済学部のカリキュラムの特徴は、経済理論・経済政策、制度経済学・経済史、経営学・会計学という幅広い分野を網羅していることです。経済学部は経済学科と経営学科とに別れていますが、どちらに所属しても、これらの分野を一通り勉強することになります。これによって、

社会や市場全体を見渡す「経済学的視点」と、個別企業の立場から考える「経営学的視点」を同時に持つ複眼的な人材を育成します。また、歴史を通じて多様な経済体制について学ぶことで、現代社会を様々な切り口で分析できる人材を育成します。

経済学科 個人や企業の自由で合理的な意思決定に基づく社会全体の調和と発展について考えます。

経営学科 集団に調和と秩序を持たせる方法、合理的な意思決定の方法について考えます。

分野	分野の特徴	1年	2年春学期	2年秋学期～4年
理論・政策	「経済学」と聞いて最初に思い浮かべる主流派の経済学（近代経済学）を学びます。数理的な理論分析と統計的な実証分析を通じて、財政、労働、金融、農業、教育、医療などの社会問題を考える方法を学びます。「経済学を学んだ」と言うためには欠かすことのできない分野です。	統計解析 経済数学A 経済数学B マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 計量経済Ⅰ	マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 計量経済Ⅱ	国際経済 公共経済 経済政策 財政 金融 経済発展 労働経済 産業組織 農業経済
制度・歴史	経済学は大がかりな実験ができません。そこで、各国の多様な制度や歴史を手掛かりにして、政治、文化、社会など、多様な側面を考慮しながら、資本主義経済の仕組みを理解しようとする分野です。主流派の経済学を絶対視せず、批判的な目を持って理解するためにも欠かせない分野です。	政治経済学Ⅰ 一般経済史Ⅰ	政治経済学Ⅱ 一般経済史Ⅱ	経済学史 現代資本主義 日本経済史 西洋経済史 社会思想史
経営・会計	経済理論は、人や企業が合理的に行動すること、情報が完全に行き渡っていること、市場への参入・退出が自由であることを仮定しています。これを、立場を変えて、どうすれば合理的に行動できるか、どうやって情報を収集・処理するべきか、いつ、どうやって市場に参入・退出するべきかを考えます。3分野の中ではもっとも実践性を重視する分野です。	会計Ⅰ 会計Ⅱ 経営Ⅰ 財務諸表Ⅰ	経営Ⅱ 財務諸表Ⅱ	財務会計 管理会計 経営組織 ファイナンス 生産管理 情報処理 国際会計 経営分析 経営労務 マーケティング 経営戦略 監査 経営情報



ゼミナールで学ぶ

徹底した少人数制による専門研究と人格的交流の場

経済学部のカリキュラムにおいて、ゼミナールは重要な役割を果たしています。ゼミは必修で、教員と原則8名までの学生によって構成されます。ここで専門分野の研究を集中的に行います。

まず2年次秋学期に、各教員によるゼミのテーマの発表、先輩達によるゼミ紹介などを参考にしてゼミを選択し、書類審査や面接を経て、所属ゼミが決定されます。そして、3年次からゼミが始まります。各ゼミの活動内容は多種多様ですが、一般的には、数冊のテキストを読み、報告・討論する形で運営されます。工場見学や企業調査を行ったりするゼミもあります。また、夏休みには、レポートが課さ

れたり、ゼミ合宿を行ったりすることもあります。インターゼミナール（他大学との研究発表会）に参加するゼミもあります。4年次には、卒業論文の作成が重要な課題となります。研究テーマを絞り込み、より専門的な文献を読んだり、詳細なデータ分析をしたりします。そして1月中旬に、4年間の勉学の集大成として、卒業論文を提出します。

この他にも、ゼミ旅行やコンパ等、ゼミ単位の行事がたくさんあります。このように、ゼミは単に専門知識を学ぶだけの場ではなく、教員や学生同士の人格的交流の場でもあります。ゼミ活動にどのように関わるかで、経済学部の生活は大きく変わるといいでしょう。



御子柴ゼミナール

御子柴ゼミナールでは、マクロ経済の動きおよび経済政策の効果とその限界について、分析・思考する力を養う訓練を行っています。そのために、ミクロ経済主体の意思決定とマクロ経済の相互作用を理解することが重要であり、ミクロ的基礎付けのあるマクロモデルを学びます。3年次には、理論・分析手法の基礎を固めるために標準的なテキストを輪読し、理論モデルを現実経済に応用する手法として数値計算を学びます。また、各自の関心に沿った文献を報告・議論し、理論と現実を結びつける視点を養います。4年次には、各自の関心に基づいた研究テーマを設定し、卒業論文の執筆に取り組みます。

御子柴ゼミでは、マクロ経済学および公共経済学を基礎とし、税や社会保障、財政の持続性、格差、経済成長といった社会的課題についてミクロ的基礎付けのあるマクロモデルを用いて分析しています。3年前期では『財政学をつかむ』を輪読し、理論の基礎を修得することに注力しました。後期では理論モデルをより詳細に分析する上で有効な数値計算手法を学びました。また、通年で経済政策や社会問題に関する理解を深めるためにVoxEUコラ

ムの記事を読み、議論・発表を行いました。自らが直面する社会問題に対して、その理論や解決策を全員で議論できた点が有意義でした。4年次には、これまでの学びを基に、それぞれが関心のあるテーマで卒業論文を執筆しています。ゼミ活動を通じて、複雑な社会問題を理論的かつ実証的に捉える視点を養っています。

4年 石川 泰己さん



木越ゼミナール

木越ゼミナールは歴史を経済学で考える訓練を行っています。歴史は1回限りの出来事のように見えますが、経済発展という観点から理解すると時代や国を超えた共通の論理を持ちます。その共通性を理解した上で、細かな部分に目を向けて、はじめて時代と国の個性が見えてきます。そのためには、史料に触れるだけでなく、社会科学の方法と理論を学ぶことも重要です。時には、フィールド活動を通じて文字で記録された内容を仮想的に実感することも有益です。複数のアプローチによって、歴史を多面的に理解できる力を養成することを目指しています。

木越ゼミナールでは、主に経済史について学んでいます。3年前期には経済史に関する論文を、後期には宮本又郎他編『1からの経営史』（碩学社、2014年）を輪読し、その内容についてゼミ生と議論しました。先生の指導のもと経済史の知識だけでなく、アカデミック・ライティングの基礎を身に着けました。また、慶應義塾大学・立教大学との合同ゼミや学内の合同ゼミでは興味のあるテーマに関する研究報告を行いました。議論や発表から、

様々な学生から刺激を受け多角的な視点を得られるとともに、意見を伝えることを通じて自ら考えを深めることが出来ました。授業では時折名古屋市内の博物館を訪問することで、知識や興味の幅を広げられました。そして4年次には、これまで学んできた知識を活かし、先生の指導のもと卒業論文を作成します。自らの興味を探究する面白さを実感しています。

4年 鈴木 翔子さん



プロフェッショナルを目指す

大学での学びをキャリアにつなげる

経済学部では、資格試験の教育で実績がある学校法人名古屋大原学園と会計専門職育成に関する業務提携を結び、公認会計士試験の受験対策講座を開講しています。(受講には別途受講料が必要です。)

公認会計士の魅力

公認会計士は会計のプロフェッショナルです。主な仕事は、企業が作成する財務諸表(決算書)に虚偽がないかをチェックする「監査」ですが、その他にも起業の支援やコンサルティングなど、活躍の領域は多岐にわたります。

また、公認会計士資格を持っていることは、一般企業への就職でも有利です。国家資格を武器にすることで、特定の会社に依存せず自由に仕事を選べます。

世界的な人気企業で働く

右上の表は、世界の人気企業のランキングです。Google, Apple, Microsoftなどと並んでランクインしているのが監査法人です。公認会計士は、多くの場合、これらの監査法人で働くことになります。国内の人気企業だけではなく、世界的な人気企業を目指してみてもはどうでしょうか。

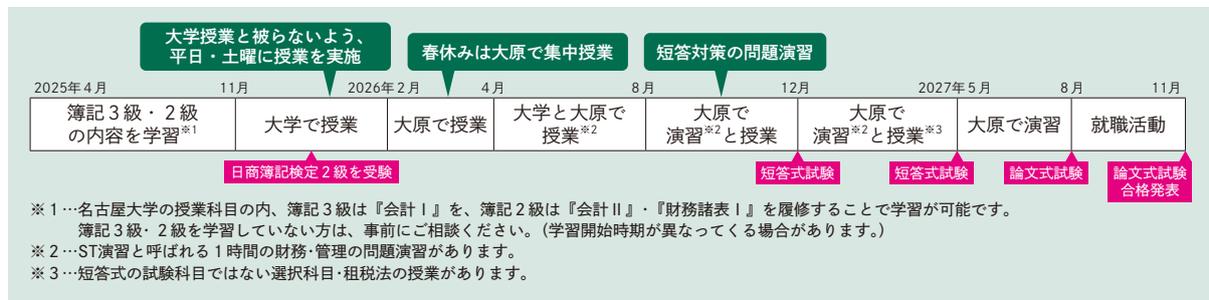
Business Students	
Employer	2022
Apple	1
Google	2
Microsoft	3
Amazon	4
L'Oréal Group	5
Deloitte	6
JPMorgan Chase & Company	7
Goldman Sachs	8
EY (Emst&Young)	9
KPMG	10
PwC (PricewaterhouseCoopers)	11
BMW Group	12

(出所) Universum 「World's Most Attractive Employers |2022」

講座の特徴

公認会計士講座の授業は、大学の授業期間中は大学の校舎内で受講することができるので、移動に時間を使わずに済みます。また、大学の時間割や定期試験の日程に合わせた、受講しやすいカリキュラムになっています。

また、専用の教室が用意されていて、授業のないときは、自習室として自由に使うことができます。この部屋で仲間ができて、一緒に勉強を頑張ることができます。



榊原 弘恭 さん

現役一発合格	
2018年	名古屋大学経済学部入学
同年秋	公認会計士講座開始
2020年	大学3年次に公認会計士試験に合格
2021年	有限責任監査法人トーマツにて、学生非常勤として勤務
2022年	名古屋大学を卒業、有限責任監査法人トーマツに入社

講座の思い出は…

この講座の大きな特徴は、①大学の授業に沿ったスケジュール、②大学内の専用の自習室・教室です。大学の授業に合わせてスケジュールが組まれるため、負担なく大学の授業との両立ができました。また、会計士受験生専用の自習室が用意され、授業もここで受けます。空きコマの時間や、夕方も大学内で自習ができます。専用の自習室なので、一緒に勉強する受講生と相談し、助け合いながら勉強を進めることができました。長い戦いになりますが、同じ大学の友人と勉強を進め、合格後は同じ監査法人で働くことができ、今でも仲良くできているのもこの講座の環境のおかげだと思っています。

会計士ならではの体験談

試験合格後、大学卒業までの1年間は学生非常勤として週4日監査法人で働き、卒業後はフルタイムで働いています。この資格を持って監査法人で働くこと、たとえ学生でありながらも、経済の最先端で働く様々な方と同じ場所で働くことができ、時には1人に対応することもあります。若いうちからでもそういった方々と共に働くことができる経験は、責任は大きいですが良い経験になります。多くの会社・業界に触れ、若いうちから多くの経験が積める点がこの仕事の魅力だと思います。

講座を検討している人へのアドバイス

会計士の資格に対する世間からの信頼は、学生時代に思っていたものよりもはるかに大きいです。独占業務の監査だけでなく、税務、コンサル、教育等、この資格を活かした道はいくらでも広がっています。合格までは険しい道のりですが、この講座で仲間と一緒に勉強すれば合格はかなり近づくはず。将来やりたいことがある方も、そうでない方も、目指して損のない資格です。興味のある方はぜひ目指してみてください。数年後、一緒に働くことを楽しみにしています。



海外派遣プログラムで学ぶ

大学全体のプログラムに加え、経済学部独自の海外派遣プログラムも充実

名古屋大学経済学部では、グローバル人材の育成を目指して、複数の国際交流プログラムを提供しています。例えば、ドイツ・フライブルク大学への夏季派遣プログラム、シンガポール国立大学への派遣プログラム、韓国の高麗大学への派遣プログラムなどがあります。1学年205名の入学定員に対して約40名分の枠が用意されているため、5人に1人はこれらのプログラムを利用して海外経験をすることになります。また、これらの派遣プログラムでは、政府や企業、大学や同窓会（キタン会）から資金的な支援を頂いて、学生の渡航費用を補助しています。

学生の派遣だけではなく、シンガポールなどの海外協定

大学の学生の受け入れも行っています。日本に来た学生は、学内で講義を受講するだけでなく、名古屋大学の学生と一緒に工場見学やグループワークに参加しています。名古屋大学の学生は、日本に居ながらにして、あるいは、自分が海外派遣プログラムに参加する前に、国内で海外の優秀な学生と触れあい、一緒に学ぶことができます。

さらに、名古屋大学全体としても、世界に100以上の協定大学をもち、数多くの海外派遣プログラムを提供していますので、学生は自分の語学レベルや目的に合ったプログラムを選択することができます。経済学部の派遣プログラムを経験した学生の多くが、その後、交換留学しています。



●シンガポール国立大学への派遣

時期：2月頃/日数：10日間/人数：10名程度/内容：日本企業の訪問・現地学生とのディスカッション



●フライブルク大学への派遣

時期：9月頃/日数：4週間/人数：10名程度/内容：語学研修・フィールドワーク



●高麗大学への派遣

時期：12月～1月/日数：3週間/人数：10名程度/内容：人文社会系系の英語開講講義から選択受講



経済学部 経済学科
4年 宮田 賢 さん

私は全学交換留学プログラムで2学期間、スイスのジュネーブ大学に通いました。多数の国際機関・多国籍企業が本部を置くこの都市には、多様な文化を持った学生が集まります。私がここで特に力を入れたことは、大学の授業でのグループワークです。

2学期間グループワークのある授業に複数参加し、各々約1～2ヶ月間、授業内外で現地の学生や留学生と議論を通じてプロジェクトを策定し、プレゼンテーションに取り組みました。特に最初の学期は、周囲から納得してもらえる意見をなかなか出すことが出来ずに落ち込むこともありましたが、落ち着いて周囲を観察すると、チームメイトの質の高い意見や文献調査には、たとえ創造的なアイデアが求められる経営系の課題で

あっても、必ず大量のインプットとそれらをつなげる論理的思考がベースにあることに気がきました。その後は意識をしてより多くの文献を読み、順序立てて自身の意見を加えることで、周りからより多くの納得を得られるようになり、全体の意見に取り込むことが出来ました。これ以外にもプレゼンテーションや文書作成など多くの反省点はありますが、プロジェクト内外でのチームメンバーとの関わりを通じた、新しい価値観や考え方の出会いはとても興味深く、自身の視野を広げる出来事だったと実感しています。社会に出れば今まで以上に課題解決が求められると思いますが、ここでの気づきや学びをこれからも伸ばして、文化や言語の垣根を超えて活躍できるようになりたいです。



経済学部 経営学科
3年 山田 凜 さん

「高麗大学英語開講冬季プログラム」に参加し、人文教養科目を英語で学びました。参加前は、留学経験はもちろん海外渡航の経験もなかったため、すべて英語で行われる講義を受講することに大きな不安を抱きながら渡航したことを覚えています。

講義では、K-Cultureの背景にある韓国メディアの歴史や特徴について学びました。内容自体は、大学受験で身につけたリスニングやリーディングの力で問題なく理解できましたが、レクチャー後のディスカッションで意見を交わす際には、思うように発言できず、もどかしさを感じる場面もありました。もっと論理的に自分の考えを伝えられ

るようになりたいという思いは、帰国後の英語学習への大きな原動力となりました。

もう一つの大きな収穫は「自信」です。鑑賞した作品について課された2000字程度の期末レポートを自分の力で英語で書き上げ、良い成績を収めることができたことは、大きな自信につながりました。

実際に海外に行ってみなければ得られない経験が数多くあることを実感し、世界中の学生との交流を通して自分の視野が大きく広がったと感じています。今回の経験を糧に、今後も積極的に挑戦していきたいです。



学部・修士5年一貫教育プログラムで学ぶ

+1年で取得するプロフェッショナルへのパスポート

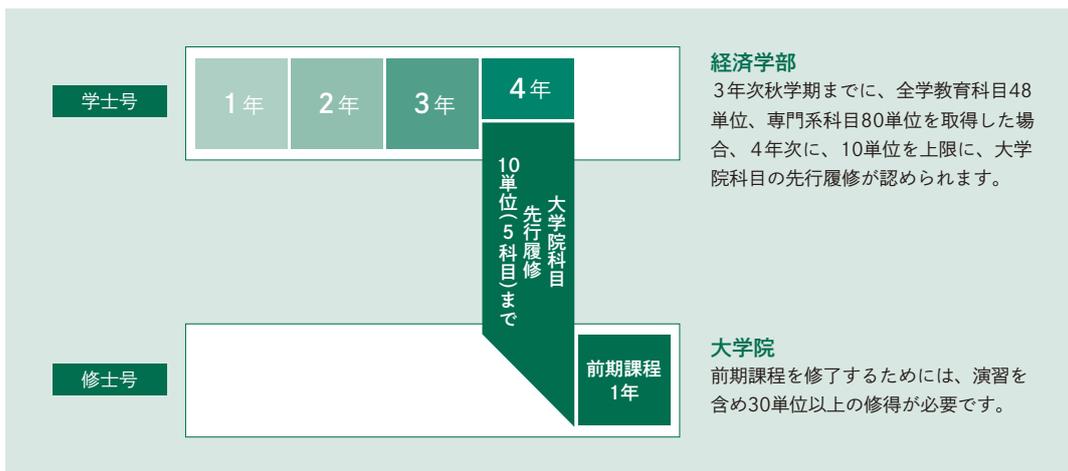
経済学部の4年の課程を修了すると、みなさんには、「学士」という学位が授与されます。その後、大学院で2年の課程（前期課程）を修了すると「修士」、さらにその後3年の課程（後期課程）を修了すると「博士」の学位が授与されます。修士は「マスター」、博士は「ドクター」ともよばれます。修士号を取得するということは、先端的な研究についてもよく理解して、学術的な調査や分析の方法を修得しているということです。

日本の、特に文系の学部では、修士・博士という学位を取得することは、あまり重要視されていないようです。しかし、

日本でも、理系の学部では修士の学位を持つことは普通になっています。また、海外では、どこの大学を卒業したかに加えて、学士・修士・博士という学位の違いが意識されることも多いようです。将来、グローバルな企業で働こうと思っている人は、修士号を取得しておいても損をすることはないでしょう。

名古屋大学の経済学部には、学部4年+修士2年の計6年の課程を5年（学部4年+修士1年）で短縮修了できるプログラムがあります。3年次に一定の成績基準を満たしている学生はこのプログラムに挑戦することができます。

■ 学部・修士5年一貫教育プログラムの仕組み



わたしが大学院で学ぶ理由



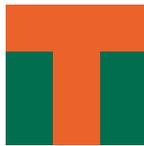
経済学部 経営学科
4年 則竹 雄介 さん
学部・修士5年一貫教育プログラム
大学院科目履修資格者

私が大学院に進もうと思ったきっかけは、学部・修士5年一貫教育プログラムでした。漠然とした思いで学生生活を過ごしてなかで、大学院の敷居は相当に高く感じていましたが、いざ大学院で学ぶ事を視野に入れると「なぜ自分は大学で学ぶのか」ということを強く意識するようになりました。キャリアを積む場としての大学もあり得るのですが、それよりも「自分が何をできるようになりたいのか」という考えが浮かび、そのために何を学ぶ必要があるのかを考えるようになったと思います。そうすると大学院もそう悪くはありませんでした。

しかし、大学院で学ぶことはそう簡単に決められるものでもありません。未だに大学院に所属してなくても、大学院生として書くべき論文の精度は理解しており、そのレベルは非常に高く感じます。とりわけ「間違いのない知識・分析手法を学

んで使いこなすこと」と「どのような論文を書くのか」という構想を練ることは非常に重荷になると予感しています。それでも長い時間をかけてじっくり理解することは自分ができることを着実に増やし、自身のテーマを書き上げることは誰にも負けない分野を持つことと同義に感じます。これを「投資」と捉えれば、なかなか良いリターンなのでは？と感じるのは私だけじゃないと思っています。

まさに長短がある大学院ですが、私は特に大学院での知識を働くときに発揮したいと考えてます。それゆえにテーマも自身が目指す業界を調べたいと思っています。だからもしこれで大学院を出ることが出来たのならば、どんなに自信をもって過ごしていけるのか、そう考えて今後も励んでいきたいと考えてます。



卒業後の進路

就職率だけでなく、それぞれの適性にあった就職を支援

本学部では、毎年、ほぼ100%の学生が希望通りに就職しており、各種調査による、経済・経営・商学系の就職率ランキングでは、全国1位になっています。就職先は、製造業、サービス業、公務員まで多岐にわたります。また、毎年20~30名ほどの学生が公認会計士の資格取得を目指しています。

また、本学部では、同窓会であるキタン会と連携して、

単に有名企業や人気企業への就職を目指すのではなく、学生ができるだけ幅広い業種に目を向けて、適性にあった就職先を見つけるための支援もしています。例えば東証プライム上場企業を中心とした60社以上の企業による「キャリア形成講習」の開催、年齢の比較的近いOBと懇談できる企業見学会を開催するなどしています。



2024年度卒業
中部電力
植松 美帆 さん

大学生活の中で、自分の将来について真剣に考え始めるタイミングは、人それぞれだと思います。でも、いざ就職活動が始まると、「本当に自分に合った仕事って何だろう？」と不安になる人も多いのではないのでしょうか。

名古屋大学経済学部では、企業説明会や就職セミナーに加えて、多岐にわたる業界で活躍する先輩方がおり、その関係を通じて様々なお話を伺うことができます。実際に社会で働く先輩の話聞くことで、業界のリアルな姿に触れ、自分に合った仕事を具体的に思い描けるようになります。

また、授業やゼミを通じて、早い段階から「働くこと」について考える機会が得られるのも大きな魅力です。自分の関心や強みに気づききっかけが、日々の学びの中に自然と組み込まれています。

私自身、最初はやりたいことがはっきりせず、進路に悩んでいました。でも、共に過ごしてきた友人や多くの先輩方の話を聞く中で、自分に合いそうな業界と出会い、「この仕事をしてみたい」と思えるようになりました。その後の面接等の選考過程においても、大学で学んだことや培ってきた経験が大きな力になったと思います。そして、実際に働き始めてから大学生活を振り返ると、大学での学びも、友人との出会いも、就職活動も、全てが充実し、満足できるものだったなと感じます。

名古屋大学経済学部は、学生が自分と向き合いながら将来へ向かって成長できる場所です。進路に迷ったときこそ、ここでの学びや出会いが、大きな支えになるはずです。



2022年度卒業
西日本電信電話株式会社
不破 みなみさん

大学生活は、卒業後の進路設計において極めて重要な役割を果たしました。

私は元々、自らの興味を原動力として、地元金沢の発展やその影響に感動し、「地域への貢献」を志向していました。そこで、公共経済学のゼミに参加し、より良い社会を築くための自治体視点の知識を習得しました。この獲得した知識は、私の現在の職業にも生きています。

また、大学生活の中で築いた人間関係が今の自分に大きな影響をもたらしています。就職活動の過程で何度も挫折や困難に直面しましたが、そうした困難を乗り越えられたのは、出会った多くの人々と交友関係を築くことで、優れた仲間や先輩たちからの

助言やサポートを得られたからだと確信しています。さらに、多様なバックグラウンドを持つ人々との交流は、新たな視点や他者との関わり方など社会人にとって重要な基盤を築く学びにもなり、自己成長に欠かせない機会となりました。

このように名古屋大学には、未来への自己実現を促す環境が十分に整っています。将来の展望を実現するためには、この恵まれた環境を最大限に活用することが不可欠だと感じています。この機会を全力で活かし、自信を持って次のステップに進んでください。そして何より、「人生の夏休み」と言われる大学生活を精一杯楽しんで、豊かな経験と思い出を作り上げてください。

主な就職先 (2025年3月卒業)

EYストラテジー・アンド・コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人、JFEスチール、NTT東日本グループ、PCIソリューションズ、PwC京都監査法人、SCSK、アクセンチュア、アビームシステムズ、アフラック生命保険、オリックス、ゲンキー、シンプレクス・ホールディングス、セキュリティスタッフ、トヨタ自動車、トヨタ車体、パーソルワークススイッチコンサルティング、ビューテック、ブラザー工業、みずほリサーチ&テクノロジーズ、みずほ証券、みずほ信託銀行、みずほ不動産販売、リンナイ、レバレッジズ、伊藤忠商事、一宮市役所、fundbook、NTTデータ、NTTデータ東海、SBI証券、Speee、U-NEXT、アイシン、あいち銀行、アシスト、アドヴィックス、オービック、カブコン、クニエ、システムリサーチ、タカラトミー、デンソー、デンソーテン、ニトリ、フォーカス、ブレインパッド、ペイカレント、ペイカレント・コンサルティング、ポーラ、マキタ、マルハン、みずほフィナンシャルグループ、みずほ銀行、岡三証券グループ、高津製作所、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、十六フィナンシャルグループ、十六銀行、商船三井、大垣共立銀行、共通PRコンサルティング、日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、日本総合研究所、日立ソリューションズ、福井銀行、豊田自動織機、名古屋銀行、岐阜労働局、共同コンピュータ、近畿日本ツーリスト、近畿日本鉄道、合同会社DMM.Com、国土交通省、財務省、東海財務局、阪和興業、三甲、三島市役所、三菱UFJニコス、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、三菱UFJ信託銀行、三菱重工業、山田コンサルティンクグループ、鹿島建設、住友化学、西日本電信電話(NTT西日本)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、静岡県庁、税理士法人オールエンジア、ブレインパートナー会計事務所、税理士法人みらいコンサルティング、税理士法人葵パートナーズ、川崎市役所、全国共済農業協同組合連合会(JA共済連)、総合警備保障、大学共同利用機関法人自然科学研究機構岡崎統合事務センター、中部テレコミュニケーション、中部国際空港、中部電力パワーグリッド、中部電力、土岐市役所、東海国立大学機構、東海東京フィナンシャル・ホールディングス、東京海上日動火災保険、東建コーポレーション、東日本電信電話(NTT東日本)、東日本旅客鉄道(JR東日本)、東邦ガス、日総工業、日鉄ソリューションズ中部、日本碍子、日本生命保険、日本電気(NEC)、農林中央金庫、北陸財務局、名古屋家庭裁判所、名古屋国税局、名古屋市役所、名古屋中小企業投資育成、野村不動産ソリューションズ、野村證券株式会社、有限責任あずさ監査法人、有限責任監査法人トーマツ ほか

大学院進学

大学卒業後、さらに深く学ぼうとする人のための教育・研究のための場が大学院です。大学院は、単に研究者になるためだけのものではありません。大学院には2年の前期課程（修士課程）とその後3年の後期課程（博士課程）があり、前期課程を修了した時点で企業などに就職する道も開かれています。

大学院では、講義を通じて教科書の内容を学ぶだけでなく、指導教員の下で、専門書や論文を読み、実地調査やデータの分析を通じて、学問の本質に迫ります。一方的に知識

を教えられるのではなく、指導教員との双方向の対話を通じて「問う力」「考える力」「説明する力」を身につけます。また、大学院には留学生や社会人として大学院に通っている人達がたくさんいます。こうした多様な人達と触れあい、視野を広げられることも大学院の魅力です。

企業に就職する前に、社会を俯瞰的に捉えられるようになりたい、人とは違う新しい発想をしてみたい、自分の意思決定に自信を持てるようになりたい、そう思ったら、大学院進学も良いかもしれません。



経済学研究科
産業経営システム専攻
イ ユベーン
M1 LEE Yubeen さん

私が大学院進学を決意した理由は、学部時代に卒業論文を執筆する中で研究の面白さに気づいたことにあります。学部3年生から、自分の疑問を自らの手で分析し、仮説を立てて検証し、結論を導くという一連の過程を経験する中で、研究への興味が深まりました。当初は多くの文系学生と同様に卒業後、就職を考えていましたが、就職活動を進めていくうちに、まだ自分の中に研究への未練があることに気づきました。そこで、自分の将来を真剣に見つめ直し、学部4年次に大学院進学を志すようになりました。そして無事に入学し、今でもその選択に後悔なく、楽しく研究に取り組んでいます。

研究を進める中では、思ったような結果が出なかったり、必要な資料を入手できなかったりと困難も多くあります。しかし、そのようなときには指導して下さる先生方のアドバイスをもらい、自分自身でさらに深く調べることで乗り越えてきました。そうした経験を通じて、自分の成長を実感することができ、研究のやりがいを一層感じています。私は学部時代から一貫して、日本企業の海外進出戦略に関する研究を行っており、最終的には「普遍性」を持った海外進出戦略の枠組みを提示することを目指しています。私は将来、大学院で学んだことを社会に還元し、将来は社会に貢献できる人材となることを目指しています。

卒業生就職等状況一覧表

業 種		2022年度	2023年度	2024年度
1	農 林 ・ 水 産 業			
2	鉱 業			
3	建 築 業	7	6	2
4	食品・たばこ・飲料	2	2	
5	繊維・衣類・その他の繊維			
6	印 刷 等			
7	化学工業・石油・石炭製品	5	4	2
8	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	4	2	2
9	一 般 機 械 器 具	4	3	3
10	電気・情報通信・機械器具	11	7	2
11	電子部品・デバイス	1		
12	輸 送 用 機 械 器 具	12	18	14
13	精 密 機 械 器 具		1	
14	そ の 他	6	4	5
15	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	5	4	7
16	情 報 通 信 業	30	30	28
17	運 輸 業	6	4	5
18	卸 売 業	4	4	3

業 種		2022年度	2023年度	2024年度
19	小 売 業	7	2	3
20	金 融 業	22	34	38
21	保 険 業	9	12	10
22	不 動 産 業	5	2	2
23	飲 食 店 ・ 宿 泊 業	2		
24	医 療 ・ 福 祉		1	
25	教 育 ・ 学 習 支 援 業		3	1
26	複 合 サ ー ビ ス 事 業			24
27	サ ー ビ ス 業	28	24	6
28	国 家 公 務	5	11	7
29	地 方 公 務	16	8	9
30	そ の 他	2	6	5
小 計		193	192	178
31	大 学 院 進 学	7	11	8
32	そ の 他	18	16	15
計		218	219	201

附属機関・施設

学部生・院生の学びをフォロー

名古屋大学には、中央図書館の他に、各学部の図書室があります。経済学図書室は、その蔵書の質と量、閲覧環境等において、名古屋大学の学部図書室の中でも指折りの図

書室です。また、経済学部・経済学研究科には国際経済政策研究センターがあり、各種の統計データ、産業、企業、労働等に関する資料を入手することができます。

経済学図書室

経済学図書室は、国内外の経済学及び周辺分野の図書、雑誌、電子ジャーナル、最新のデータベース、電子書籍を揃えています。なかでも、EU、OECD、IMF等の国際機関刊行物、アメリカ等外国政府刊行物は蔵書の特色の一つです。特にEUについては、イギリス等がECに加盟した1973年以来、経済学図書室はEU情報センターに指定され、EU公式資料の主たるものはほとんど受け入れています。

また、伝統ある経済学、社会思想の古典類についてもよく収集されており、貴重書室には、1850年以前に刊行された図



書が、革の背をみせて並んでいます。中には、アダム・スミスの『国富論』、マルクスの『資本論』、ケインズの『雇用、



利子および貨幣の一般理論』の初版本等もあります。経済学の礎を築いたり、世界史を動かすものになった名著が、出版時の雰囲気や今に伝えています。この他に、「イギリス革命文庫コレクション」（イギリス革命に関する17世紀から18世紀の原資料およびその研究文献）、小川文庫（イギリス経済学とくに重商主義者、古典学派、リカード派、社会主義派の著作）、徳重文庫（18世紀および19世紀の西欧社会思想）もあります。

さらに、経済学部ゼミ対象の講習会「経済産業情報の探し方」を毎年開催し、学習・研究に必要な文献やデータなどの情報収集方法を紹介しています。カウンターでも利用相談や参考調査を随時受け付けています。

国際経済政策研究センター

国際経済政策研究センターの起源は、名古屋大学経済学部の前身である名古屋高等商業学校（1920年創立）に設けられた産業調査室です。後に「雁行形態論」で国際的に有名になる赤松要が、実証に基礎づけられた経済の研究をするためには、統計などを体系的に収集する組織が必要であると訴えて、1926年に産業調査室が設置されました。

これを継承した名古屋大学経済学部・経済学研究科は、今日まで、着々とデータを集め続けてきました。100年近くにわたって地道に蓄積された経済統計資料、政府刊行物、企業



体資料の内容は中部地区では抜きん出たもので、たとえ大金をつぎ込んでも今からではもう決して作られない貴重な財産となっております。この他、社史の収集や荒木光太郎文庫（元東京帝国大学経済学部教授のコレクション）をはじめ、所蔵コレクションの整理も積極的に行っており、学内外から幅広く利用されています。もっとも、今日では単なる資料収集・整理組織ではありません。1970年代からの度重なる改組によって、研究機関としても着実に発展してきました。研究・教育の両面で経済学研究科と緊密に協力しつつ、広い視点から実証的な調査・研究を行っています。そして、その成果を内外の大学や研究機関をはじめ、広く社会に還元しています。



経済学部・経済学研究科同窓会「キタン会」

各界の第一線で活躍する先輩

名古屋大学経済学部・経済学研究科には「キタン（其湛）会」という、名古屋高等商業学校（1920年創立）から受け継がれた同窓会組織があります。その名称は、中国の古典『詩経』「小雅」篇にある「子孫其湛其湛曰楽各奏爾能」（天から幸福を授かり、子孫がその恵みを楽しみ、得意の技能を披露している）という子孫繁栄の祝歌から採ったもので、「母校の発展を願ってきた多くの先輩の志を受け継ぎ、後輩の幸福に寄与する」という意味があります。2万1000人以

上の卒業生のために、東京、関西をはじめ全国に支部を設けています。また、名古屋市職員で組織する「丸八キタン会」や、企業・団体別に同窓会を組織しているところもあります。キタン会は、卒業生の親睦を深めるだけでなく、経済学部や経済学研究科に対して各種の支援事業（留学支援など）を行って来ています。入学時から、在学中、卒業時まで、みなさんの学生生活を財政面と人的ネットワークの面から支えて来ています。

活動内容

『世代を超えてのネットワークづくり』 『学友や先輩とも有意義な時間を共有できる場』です

キタン会は年間を通じて交流があります。

* 6月の名大祭には、ウエルカムイベントが開催され、先輩や新しい友との交流や各界で活躍するOB/OGの参加もあり、世代を超えて親しく話し学ぶこともたくさんある貴重な機会です。また、学生有志による模擬店出店などの企画もあります。

* 10月の名古屋大学ホームカミングデイでは「オープンカレッジ」経済・経営学の面白さが発見できるような講義や同期会なども開催しています。

* 1月には新春講演会、支部の懇親会もあり、世代を超えての交流を深めています。

* 3月は「卒業のお祝い・同窓会キタン会へ入会歓迎」としてフェアウエルイベントを開催しています。

イベントの詳細はキタン会のメルマガやHPでタイムリーな情報を発信しています。



留学助成や業界研究会などの学生支援も活発に行っています

《海外派遣プログラムで学ぶ》ドイツ・フライブルク夏季派遣プログラムやシンガポール派遣プログラムへの短期留学の助成をしています。

《ゼミナールで学ぶ》どのゼミを選んだらいいか迷う？との声により、ゼミ紹介イベントを開催しています。各ゼミの代表からゼミの内容や実績などのプレゼンがされ、ゼミ選択の礎になっています。

《企業研究や就職活動の支援》をするため、人気の企業による「キャリア形成講習/業界説明会」を開催しています。学部・学年を問わず参加ができ、自分がどの企業・業界に適しているのか？発見することができ、将来を考える絶好の機会となります。

就活を終えた4年生による就活体験報告や相談会も開催しています。ネットでは得られない情報・質問にも答えてもらうことが出来ます。



キタン会 会長
鈴木 武

刈谷高から、1970年経済学部卒。
(元)トヨタ自動車・専務
(現)東海国立大学機構・理事

同窓の絆！・交流の場！を大切にしています。

キタン会のロゴマークは同窓生・学生・教員の《三つの和(輪)》があつてこそ、お互いの繁栄が得られるとの「其湛」の精神を著しています。

ネット社会の利便性を利用してオンライン開催の交流もありますが、三つの和(輪)がさらに広がり、世代を超えた交流ができることを願っています。



大学院修了後の進路

大学院修了後は、専門知識を活かした職業に就くことが多いようです。前期課程（修士課程）を修了して就職する場合には、金融機関、監査法人、あるいは官公庁への就職が目立ちます。後期課程（博士課程）を修了して就職する場合には、大学などの研究職に就くことがほとんどです。

■前期課程

有限責任あすき監査法人、有限責任監査法人トーマツ、NAGASE VETNAM CO., LTD. S&C&S, Taisei Tsunburya Fields Entertainment International Pte Ltd. あいおいニッセイ同和損害保険、タタコンサルタンシーサービシズジャパン、テックインフオメーションシステムズ、デロイトトーマツリスクアドバイザー合同会社、パナソニックオートモーティブシステムズ、NTTデータ・インフオメーションテクノロジー、さらぼし銀行、テ

■後期課程

クノスジャパン、フオーク、プライベートスター、公益財団法人中部圏社会経済研究所 深セン市EAI Robotics 天洋汽船、東京システムハウス、鍋屋バイテック、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ、Shanghai Longcheer Technology Co., Ltd. 中国郵政貯金銀行 ほか
ハノイ貿易大学、ポストンコンサルティンググループ、東海国立大学機構 名古屋大学、Bangabandhu Sheikh Mujibur Rahman Agricultural University ほか



中部圏社会経済研究所
研究員
岡野 太郎さん
2024年度修了

名古屋大学では、学部と修士課程を一貫して履修できる「5年一貫プログラム」に参加し、経済学部から経済学研究科へと進学しました。この制度を通じて、早い段階から専門性の高い学びに触れたことは、自分自身の進路選択や人生設計を考えるきっかけになったと強く感じています。

大学院では、GISを活用し、耕作放棄地に関する空間的な分析に取り組みました。地図情報と統計データから地域ごとの経済的特性や課題を多角的に捉え、実証した経験は、現在勤務しているシンクタンクで、現実の地域課題に向き合う上での確かな基盤となっています。

名古屋大学での5年間は、「考え続けることの価値」を深く実感する時間でした。入学当初は将来

大学院入試情報

出願書類受付期間（一般入試・社会人一般コース共通） 第一次募集 → 8月中旬頃 第二次募集 → 12月下旬頃

博士前期課程一般入試

- 出願資格
大学を卒業した者及び出願年度の3月31日までに卒業見込みの者
- 募集人員
○社会経済システム専攻 30名 ○産業経営システム専攻 14名
- 選抜の方法（第一次募集）
 - 第一次試験（学科試験）
 - 第二次試験（口述試験）〈第一次試験合格者のみ〉※英語能力については、TOEFL-iBT / TOEIC / IELTSの成績通知書によって評価します。

博士前期課程社会人一般コース

- 出願資格
大学を卒業した後、通算して満3年以上の社会経験を有する社会人
- 募集人員
10名程度
- 選抜の方法（第一次募集）
 - 第一次試験（学科試験）
 - 第二次試験（口述試験）〈第一次試験合格者のみ〉

第一次募集の学科試験の詳細は以下の通り

専攻	一般入試	社会人一般コース
社会経済システム専攻	A類は3題、B・C・D類は各2題出題される。受験者は、A～D類より合計2題を選択すること。ただし、自分の申請した専攻に対応する類の中から少なくとも1題は選択すること。	A類は3題、B・C・D類は各2題出題される。受験者は、全体の中から類を問わず2題選択する。
産業経営システム専攻	C類（経営学） D類（会計学） E類（経済・経営事情関係）	

【問い合わせ先】名古屋大学文系教務課（経済G） MAIL. soec-apply@t.mail.nagoya-u.ac.jp
※詳細は経済学研究科ホームページをご確認ください。



理論×実践

社会人大学院生として学ぶ

経済学や経営学の面白さは、二十歳前後の美社会を知らない若者には分かりにくい部分があります。職に就いて、世の中や組織の仕組みを知ると、経済学や経営学への興味が湧き、面白さも分かってくるのではないのでしょうか。大学を卒業して就職したものの、「もう一度勉強してみたい」「もう少し勉強してみたい」「あのとき聞いた話をもう一度聞きたい」、そんな社会人の要請に応えるためのカリキュラムを用意しています。

土曜日開講の集中講義や、夜間（18：15分以降）に開講される講義を充実させるほか、実務経験豊富な方を講師に迎えた講義も開講しています。また、社会人大学院生どうしの交流も活発に行われ、他企業、異業種との交流の場にもなっています。社会人が実務における問題や経験を持ち寄って集い、実務とアカデミズムとが切磋琢磨しあえる、そんな学びの場を提供したいと思っています。

実務家非常勤講師の一部（2025年度）

日本経済論	名古屋大学 客員教授 元 東海銀行 専務取締役	水谷 研治
現代経営論	経営コンサルタント 元 (株)スタジオアリス 副会長	伊貝 武臣
企業の海外戦略	元 トヨタ自動車 常務役員 元 東海理化 社長	牛山 雄造
危機管理論	三重大学 特任教授 元 石原産業 グループリーダー	岡 良明
知財戦略	確氷特許事務所 所長 元 デンソー知的財産部 部長	確氷 裕彦
人事管理	V字経営研究所 社長 元 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 部長	酒井 英之
アカウンティングII	日本ハム(株) 執行役員 VBM推進室 / サステナビリティ部担当	大西 淳



他分野×経済学

他学部を卒業して経済・経営を学ぶ

経済学・経営学は、法学、数学、工学、政治学、倫理学、心理学、統計学、物理学など、他の学問分野の影響を受けながら発展してきました。最近では、様々な領域融合型の大学院が開設されていますが、経済学・経営学は、まさに文理融合・領域融合の学問であり、その成功事例と言えるでしょう。今では、確立された一つの学問分野であることに誰も疑いを持ちません。

しかし、経済学・経営学を発展させるためには、今後もまだまだ他分野の知識が必要です。他の学部で培った専門的知識は経済学研究科でも活かされることでしょう。

本研究科は、経済学部以外の学部を卒業した人も広く受け入れています。これまでにも、理学部、法学部、文学部、工学部などの卒業生を受け入れてきました。また、研究科の教員にも、経済学部以外の学部を卒業した教員がたくさんいます。こうした仲間や教員と日常的に関わることで、専門的知識だけでなく、異分野の人とのコミュニケーションを可能にする、幅広い教養や知識、論理的思考力を自然と身につけることができます。

荒山裕行（名誉教授：農学部卒）	農業経済	安藤隼穂（名誉教授：法学部卒）	社会思想史
高桑宗右エ門（名誉教授：工学部卒）	経営情報論	犬塚 篤（教授：工学部卒）	経営組織論
樋野 励（教授：工学部卒）	生産管理論	鍋島直樹（教授：教育学部卒）	政治経済学
高橋 聡（准教授：工学部卒）	経営情報論	中島英喜（准教授：工学部卒）	ファイナンス



双方向の対話を通じて鍛える 問う力・考える力・説明する力

大学院における学修は、講義科目を履修して単位を取得する、あるいは、本や論文を読んでもたくさんの知識を身につけることが中心ではありません。むしろ、指導教員との双方向の対話を通じて、研究テーマについて考え、修士論文・博士論文を執筆することが中心です。論文作成の一般的な流れは次の通りです。

多くの場合、研究のテーマは指導教員によって与えられるのではなく、学生自らが見つけ出さなければなりません。そのためには、まず、「どんな問題を解決すれば、我々の『知』が一步前進するのか」を考えます。つまり、まずは「解」ではなく「問い」を発する力を付けなければなりません。「問い」が決まったらはじめて「解」を探します。しかし、実は「問い」を探す過程において「解」の見当はついていることが多いのです。ただし、それが間違っていないことを、丹念な論証と実証の

積み重ねによって確認します。「解」に辿り着いたら、それを論文にまとめます。論文では、自分の発した「問い」がいかに重要であるか、どのような手順で「解」に辿り着こうとするのか、そして、どのような「解」が導かれるのかを、順序よく説明します。

このようなプロセスを経験することによって、価値ある「問い」を発する力、科学的な方法で「考える力」、論理的に「説明する力」を身につけます。

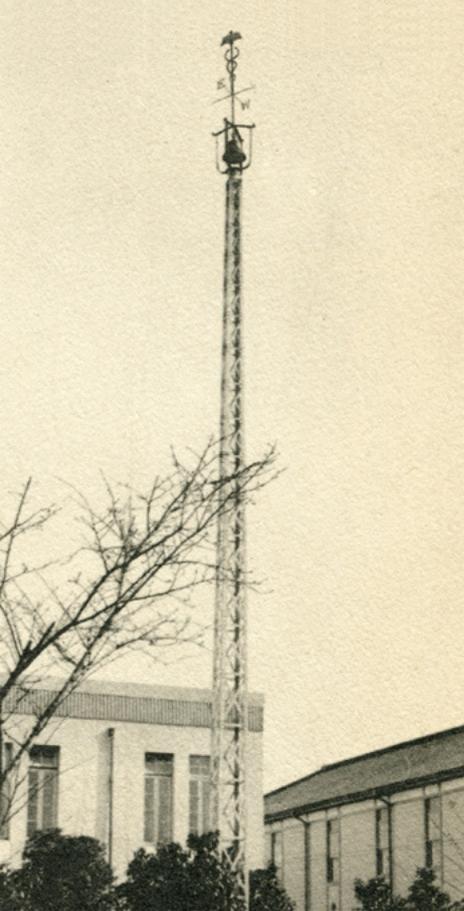


大学院の開講科目例（2025年度）

分野	基礎科目	専門科目	課題設定型講義・ワークショップ
理論・政策	上級価格理論Ⅰ・Ⅱ 上級所得理論Ⅰ・Ⅱ 上級計量経済Ⅰ・Ⅱ 上級数理経済Ⅰ・Ⅱ 価格理論Ⅰ・Ⅱ 所得理論Ⅰ・Ⅱ エコノメトリクスⅠ・Ⅱ	国際経済A・B 公共経済A・B 経済政策A・B 農業経済A・B 労働経済A・B 産業組織A・B 財政A・B 金融A・B	ミクロ・マクロ経済分析：理論と実証 ミクロ実証論文の読み方 日本経済論 International Communication（英語）
制度・歴史	上級政治経済学Ⅰ 上級経済史Ⅰ 上級経済学史Ⅰ	現代資本主義A・B 経済学史A・B 社会思想史A・B 日本経済史A・B 西洋経済史A・B	社会経済研究
経営・会計	上級経営Ⅰ・Ⅱ 上級会計Ⅰ・Ⅱ マネジメントⅠ・Ⅱ アカウンティングⅠ・Ⅱ	経営労務A・B ファイナンスA・B 生産管理A・B マーケティングA・B 経営組織A・B 経営戦略A・B 財務会計A・B 管理会計A・B 監査A・B 経営分析A・B 国際会計A・B 経営情報A・B	経済体制と企業経営 Introductory Accounting（英語） 現代経営論 人事管理 危機管理論 知財戦略 企業の海外戦略

※修了のためには、前期課程では演習を含め30単位（15科目）、後期課程では演習を含め20単位（10科目）を履修が標準必要です。

※本研究科では、レギュラーで開講される基礎科目・専門科目以外に、課題設定型講義、課題設定型ワークショップとして、その時々ニーズに合わせた科目や最先端の研究に触れる機会を提供しています。



理論 × 実践 × 倫理

経済学・経営学の特徴はその総合性にあります。経済学・経営学は、第一義的にはサイエンスであり、経済社会を対象とするデザインプリンとして、普遍的に成立する

の厚生の上、経済社会的正義の実現を目指す過程においては、人文的叡智に裏付けられた倫理的価値判断も避けられません。

抽象的な理論やモデルを志向します。そのために、先行研究を踏まえて自身の仮説を提示し、資料やデータを集めて仮説の成否を検証するという手続きが繰り返されます。他方で、経済学・経営学は実学でもあります。われわれは家計、企業、政府、その他あらゆる経済主体の提起する課題に対し、適切な解答を用意しなければなりません。そこで求められるものは、科学的に確認され普遍的に成立する理論に留まらず、日本であれ、アジアであれ、当該個別社会において観察される一般的知見や経験であるかもしれません。さらに、人々

経済学・経営学において、これらの要素の結びつきは不可分です。他の社会科学分野でも、同じような理論・実践・倫理の三要素

の交絡はあるでしょう。しかし、経済学・経営学ほどの緊張関係にはないと思われれます。近年は専門分化が進み、ともすれば視野狭窄に陥りがちですが、私たちは、この経済学・経営学に固有の不可分性・総合性を常に意識して、研究と教育を進めています。

「創統の鐘」の由来

「創統の鐘」は、名古屋大学経済学部の前身である名古屋高等商業学校の第一回卒業生によって寄贈された其湛塔の塔頂にあつて、二十有余年に亘り授業の開始と終了を告げた時鐘であります。

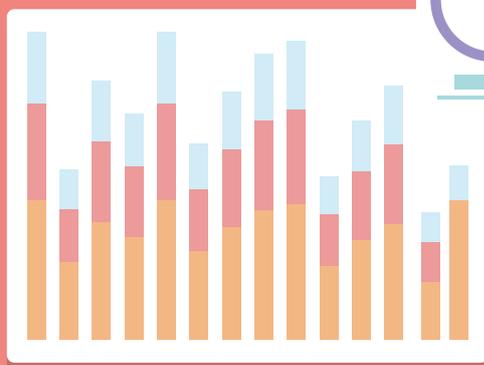
その妙音は近隣の市民にも愛されましたが、太平洋戦争の深刻化とともに、塔は取り壊され鉄材として供出されました。幸い「創統の鐘」は難を逃れ、名古屋大学経済学部に継承され、今日に至っております。

鐘銘は初代校長渡辺龍聖氏の撰になるもので、出典は孟子・二巻の「君子創業垂統、為可繼也」君子は業を創め統を垂れ、継ぐべきことを為さんのみ（君子はのちに発展する事業の基礎を築き、その事業を子孫に伝えるようにすればよい）にあります。先人の志を後輩が受け継いで発展させる、この「創統の精神」が鐘の音とともに永遠に本学に伝えられることを祈念いたします。

Q APPROACH+ PLUS

GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS

経済学へのアプローチ+



2026

